



## 平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 武蔵野興業株式会社

コード番号 9635 URL <http://www.musashino-k.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 河野 義勝

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長

(氏名) 山崎 雄司

TEL 03-3352-1439

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	649	△26.7	30	△26.8	38	△23.3	28	△28.4
28年3月期第2四半期	886	9.4	41	△29.4	49	△18.5	40	△29.2

(注)包括利益 29年3月期第2四半期 28百万円 (△28.3%) 28年3月期第2四半期 39百万円 (△31.0%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
29年3月期第2四半期	2.75	—	—	—
28年3月期第2四半期	3.84	—	—	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
29年3月期第2四半期	5,958		3,478		58.4		333.20	
28年3月期	5,912		3,450		58.4		329.63	

(参考)自己資本 29年3月期第2四半期 3,478百万円 28年3月期 3,450百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	—	0.00
29年3月期	—	0.00	—	0.00	—	0.00
29年3月期(予想)	—	—	—	0.00	—	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	1,450	△13.1	70	△40.7	80	△42.4	70	△34.6	6.69	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期2Q	10,500,000 株	28年3月期	10,500,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

29年3月期2Q	32,914 株	28年3月期	32,381 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期2Q	10,467,162 株	28年3月期2Q	10,468,102 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビューは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、一部製造業等に景況改善の兆しはみられたものの海外経済の回復力は弱く、全体としては景況は横ばいであり、先行きについても鈍化傾向にあるものと思われれます。このような状況のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、映画事業部門は、「シネマカリテ」におきまして映画祭の開催が話題を集めました。連結子会社における映画配給事業に係る営業費用の増加もあり、セグメント損失を計上することとなりました。不動産事業部門は、不動産管理収入の減少はあったものの、テナントビルの状況に大きな変化はなく営業成績は比較的堅調に推移いたしました。自動車教習事業部門は、学生を中心とした自動車運転免許の取得需要が一段落したこともあり、営業利益は減少いたしました。その結果、全体として売上高は6億4千9百万円（前年同期比26.7%減）、営業利益は3千万円（前年同期比26.8%減）、経常利益は3千8百万円（前年同期比23.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2千8百万円（前年同期比28.4%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント情報ごとの業績の状況は以下の通りであります。

（「生産、受注及び販売の状況」については、当社は映画興行や不動産賃貸業を中心に業態を形成しており、受注・販売形式の営業活動は行っておりません。販売の状況については、下記に示したセグメント情報ごとの業績の状況をご参照ください。）

#### (映画事業部門)

「シネマカリテ」では、映画祭『カリテ・ファンタスティック！シネマコレクション2016』の開催をはじめ、『エクス・マキナ』『シング・ストリート』『神様の思し召し』等、映画ファンのニーズに応える話題作を多数上映し、堅調な営業成績を収めました。自社買付配給映画『小さな園の大きな奇跡』の公開準備や、入居テナントビルの耐震工事に係る「新宿武蔵野館」休館の影響もあり、部門全体の売上高は1億6千万円（前年同期比51.1%減）、セグメント損失は4百万円（前年同期は1千2百万円のセグメント損失）となりました。

なお、「新宿武蔵野館」は、当第2四半期連結累計期間においては入居するテナントビルの耐震補強工事のため休館しておりましたが、本第2四半期決算短信公表日現在では当該耐震補強工事は完了し、平成28年11月5日よりリニューアルオープンしております。

#### (不動産事業部門)

賃貸部門におきましては、管理ビルの耐震工事に起因する不動産管理業務に係る収入の減少はあったものの、主要テナントビルの賃貸状況は大きな変化はなく、営業成績は堅調に推移いたしました。販売部門は、業界の景況を窺うに止まり、具体的な営業成績の計上には至っておりません。その結果、部門全体の売上高は2億4千9百万円（前年同期比7.4%減）、セグメント利益は1億4千3百万円（前年同期比19.1%減）となりました。

#### (自動車教習事業部門)

学生を中心とした運転免許取得需要も一段落し、新規教習生の獲得が難しい時期ではあるものの、各種割引キャンペーンや、きめ細かな送迎サービスをはじめとした地域に根ざした営業活動を行い、営業成績の維持に努めました。その結果、部門全体の売上高は1億6千6百万円（前年同期比9.5%減）、セグメント利益は1千9百万円（前年同期比41.2%減）となりました。

#### (商事事業部門)

住宅資材の販売におきましては、業界の景況に改善の兆しが見えず、営業成績は前年同期の水準を維持するに止まりました。東京都目黒区において経営委託している飲食店の売上は、業態変更による需要が一段落した影響もあり、営業成績は前年同期を下回りました。その結果、部門全体の売上高は6千8百万円（前年同期比20.7%減）、セグメント利益は3百万円（前年同期比14.8%減）となりました。

#### (その他)

主としてマクミラン・アリスの著作権料収入や自販機手数料であります。当第2四半期連結累計期間においては前年同期に計上した美術品売上等の一時的な収益はなく、全体として売上高は4百万円（前年同期比75.9%減）、セグメント利益は3百万円（前年同期比62.7%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (1) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、新宿武蔵野館改装に係る建設仮勘定の増加を主な理由とした有形固定資産の増加があったことなどから、前連結会計年度末に比べ4千6百万円増の59億5千8百万円となりました。

負債合計は、有利子負債の返済を進めた一方で、前受金の増加があったことなどから、前連結会計年度末に比べ1千8百万円増の24億8千万円となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、前連結会計年度末に比べ2千8百万円増の34億7千8百万円となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、当第2四半期連結累計期間に、営業活動において1億2千6百万円の資金を得て、投資活動において6千5百万円、財務活動において7千6百万円の資金を使用した結果、前第2四半期連結会計期間末に比べ、5千1百万円増加の6億6千5百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### 〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉

営業活動によって得られた資金は、税金等調整前四半期純利益3千8百万円、減価償却費3千5百万円、主として前受金の増加によるその他1億1千万円があった一方、持分法による投資利益1千4百万円、仕入債務の減少1千7百万円があったこと等により、1億2千6百万円（前年同期比519.4%増）となりました。

#### 〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉

投資活動によって使用した資金は、有形固定資産の取得による支出6千8百万円等により、6千5百万円（前年同期は5千3百万円の支出）となりました。

#### 〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉

財務活動によって使用した資金は、長期借入金の返済による支出6千9百万円、リース債務の返済による支出6百万円等があり、7千6百万円（前年同期は1億1千万円の支出）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本連結業績予想は、「新宿武蔵野館」の休館に係る収益への影響を考慮したうえ、前連結会計年度の実績をベースに作成しておりますが、当第2四半期連結累計期間末現在におきまして、概ね当初の見込通り業績が推移いたしましたため、平成28年5月13日に公表した平成29年3月期の通期連結業績予想の数値は変更しておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

### (4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	680,833	665,390
受取手形及び売掛金	44,075	38,085
たな卸資産	10,957	10,370
繰延税金資産	21,971	21,971
その他	23,004	39,211
貸倒引当金	△597	△626
流動資産合計	780,244	774,402
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	445,496	444,836
機械装置及び運搬具(純額)	31,150	25,776
工具、器具及び備品(純額)	29,718	27,862
土地	3,904,167	3,904,167
リース資産(純額)	36,144	29,983
建設仮勘定	3,456	60,102
有形固定資産合計	4,450,133	4,492,729
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
その他	11,538	10,330
無形固定資産合計	78,798	77,590
投資その他の資産		
投資有価証券	464,565	478,407
敷金及び保証金	89,146	89,146
その他	53,843	51,289
貸倒引当金	△4,607	△4,607
投資その他の資産合計	602,947	614,236
固定資産合計	5,131,878	5,184,555
資産合計	5,912,123	5,958,958

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,960	48,305
短期借入金	116,480	93,480
リース債務	12,322	12,322
未払法人税等	26,158	12,491
賞与引当金	12,467	13,331
その他	191,567	321,422
流動負債合計	424,956	501,353
固定負債		
長期借入金	168,620	121,880
リース債務	23,822	17,660
役員退職慰労引当金	8,906	8,906
退職給付に係る負債	121,260	125,814
長期預り敷金	623,454	614,246
再評価に係る繰延税金負債	1,082,196	1,082,196
その他	8,463	8,306
固定負債合計	2,036,723	1,979,011
負債合計	2,461,679	2,480,365
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	△83	28,698
自己株式	△7,760	△7,878
株主資本合計	996,655	1,025,319
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,703	1,189
土地再評価差額金	2,452,083	2,452,083
その他の包括利益累計額合計	2,453,787	2,453,273
純資産合計	3,450,443	3,478,593
負債純資産合計	5,912,123	5,958,958



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	886,144	649,554
売上原価	476,207	289,141
売上総利益	409,936	360,413
販売費及び一般管理費	368,388	329,991
営業利益	41,548	30,421
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,357	1,738
持分法による投資利益	10,795	14,675
その他	2,437	481
営業外収益合計	14,589	16,895
営業外費用		
支払利息	4,265	1,930
遊休資産維持管理費用	—	6,632
その他	1,906	410
営業外費用合計	6,172	8,972
経常利益	49,965	38,344
税金等調整前四半期純利益	49,965	38,344
法人税、住民税及び事業税	9,775	9,562
法人税等合計	9,775	9,562
四半期純利益	40,190	28,782
親会社株主に帰属する四半期純利益	40,190	28,782

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	40,190	28,782
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△750	△514
その他の包括利益合計	△750	△514
四半期包括利益	39,440	28,268
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,440	28,268

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	49,965	38,344
減価償却費	41,800	35,807
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△143	29
受取利息及び受取配当金	△1,357	△1,738
支払利息	4,265	1,930
持分法による投資損益(△は益)	△10,795	△14,675
売上債権の増減額(△は増加)	△20,412	5,990
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,541	587
仕入債務の増減額(△は減少)	28,521	△17,655
預り敷金及び保証金の増減額(△は減少)	—	△9,207
その他	△50,966	110,605
小計	33,336	150,018
利息及び配当金の受取額	1,357	1,738
利息の支払額	△4,263	△2,024
法人税等の支払額	△10,004	△23,228
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,425	126,504
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△27,998	△68,572
無形固定資産の取得による支出	△1,910	—
差入保証金の差入による支出	△22,201	—
その他	△1,766	2,645
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,877	△65,926
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△101,758	△69,740
リース債務の返済による支出	△8,898	△6,161
自己株式の取得による支出	△263	△118
財務活動によるキャッシュ・フロー	△110,919	△76,020
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△144,371	△15,442
現金及び現金同等物の期首残高	758,204	680,833
現金及び現金同等物の四半期末残高	613,832	665,390

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	327,791	269,794	184,144	86,542	868,272	17,871	886,144
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	35,208	—	—	35,208	—	35,208
計	327,791	305,002	184,144	86,542	903,480	17,871	921,352
セグメント利益又は損失(△)	△12,061	177,712	33,589	3,880	203,120	8,851	211,971

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	203,120
「その他」の区分の利益	8,851
セグメント間取引消去	1,263
全社費用(注)	△171,686
四半期連結損益計算書の営業利益	41,548

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	160,263	249,723	166,677	68,585	645,249	4,304	649,554
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	35,208	—	—	35,208	—	35,208
計	160,263	284,931	166,677	68,585	680,458	4,304	684,762
セグメント利益又は損失(△)	△4,241	143,747	19,757	3,307	162,571	3,298	165,869

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、版權事業その他であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	162,571
「その他」の区分の利益	3,298
セグメント間取引消去	△32
全社費用(注)	△135,414
四半期連結損益計算書の営業利益	30,421

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。